【2026 年度　薬学部　薬学科】

教育方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

日本薬科大学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」に基づき、創造的医療人、時代と地域社会に適応できる医療人、惻隠の心をもつ医療人、統合医療を実践できる医療人の養成を達成するために、卒業時に以下の資質・能力を身につけた者に対し、学位を授与します。

1.疾病の予防や治療について創造的思考力
(1)薬学的知識と技能を修得し、課題解決に向けた科学的思考力と探究心を身につけている
(2)情報・科学技術を活かし、薬物治療を実践できる能力を身につけている
(3)自己及び他者と共に研鑽しあうことができる
2.時代と地域・国際社会に適応できる能力
(1)その時々に応じて地域社会から国際社会にわたる広い視野に立つことができる
(2)医療における多職種連携の役割を理解し、患者・生活者、医療者と共感的なコミュニケーションがとれる
3.医療人としての高い倫理観
(1)全人的、総合的に患者・生活者の立場に基づいた倫理観を身につけている
(2)豊かな人間性を持ち、生命の尊厳に関する深い認識をもちながら医療を行う力を身につけている
4.疾病のみならず未病段階にまで視野を広げた統合医療の実践能力
(1)統合医療を修得し、その成果を医療や地域社会に還元できる力を身につけている

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

薬学部薬学科は、ディプロマポリシー（ＤＰ）に掲げた資質・能力を身につけるために、以下の方針に基づいて 6 年間の教育課程を編成し、教育を実践します。

CP1：疾病の予防や治療に関する創造的思考力の醸成
（1）薬学的知識と技能を修得し、課題解決に向けた科学的思考力と探究心を養うため、薬学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した基礎薬学や医療薬学、衛生薬学・公衆衛生薬学の薬学専門科目と、実習ならびに「卒業研究」を順次性をもって配置します。

(2) 情報・科学技術を活かし、薬物治療を実践できる能力を身につけるため、学部共通選択科目としてデータサイエンス系科目を設け、4 年次には「個別化医療実践」を配置しています。また、「実務事前学習」、「個別化医療」、「実務実習」を配置します。

(3) 自己および他者と共に研鑽し合う力を培うため、1 年次に主体的な学びの姿勢を学ぶ「大学での学び」を導入しています。また、薬学アドバンスト科目として「地域と大学」、「在宅医療学 I および II」を配置します。

CP2：時代と地域・国際社会に適応できる能力の醸成

(1) 地域社会から国際社会にわたる広い視野を持ち、その時々に応じて地域における問題解決に取り組む能力を養うため、「地域と大学」、「実務事前実習 II」、「実務実習」を配置しています。また、国際社会に適応できる能力を養うため、「英語 I」ではネイティブによるオンライン英会話の導入、実践アドバンスト科目として「海外研修プログラム」を配置します。

(2) 医療における多職種連携の役割を理解し、患者・生活者、医療者と共感的なコミュニケーションがとれるよう、「ファーマシューティカルケア II」、「実務事前実習 II」、「実務実習」を配置します。

CP3：医療人としての高い倫理観の醸成

(1) 全人的かつ総合的に、患者・生活者の立場を理解し、その基盤に基づいた倫理観を身につけるため、「ファーマシューティカルケア I」、「実務事前実習 II」、「実務実習」を配置します。

(2) 豊かな人間性をもち、生命の尊厳に関する深い認識をもって医療に従事できる力を養うため、学部共通科目として人文科学系科目や社会科学系科目を配置し、人間性を育む教育を行います。また、「ファーマシューティカルケア I」、「ファーマシューティカルケア II」、「実務実習」を配置します。

CP4：疾病のみならず未病段階にまで視野を広げた統合医療の実践能力の醸成

統合医療を修得し、その知識と成果を医療や地域社会に還元できる力を養うため、1 年次に「統合医療入門」、3 年次に「漢方による統合医療の応用」を配置しています。また、健康薬学コース、漢方薬学コース、医療薬学コースにおいて、統合医療の視点に基づいた選択必修科目を設けます。

学修成果については、講義や演習の各科目のシラバスに記載された到達目標の達成度を評価方法（試験や課題レポートなど）に基づいて評価します。実習、実技、フィールドワークなどの科目では、レポートや研究発表などにより各科目の学修到達度を評価するための指標（ルーブリック等）を用いて評価します。DP に掲げた資質・能力への到達度の総合的

評価は、学年進行時に各 DP（DP1～４）の到達度を評価するための指標（DP ルーブリック）を用いて自己評価を行います。それと同時に、DP1～4 に関する卒業時の最高到達度（累積 GPA）を基準として、各 DP1～4 に対する各科目との関連性（寄与度）に基づいて到達度を算出することにより、個々の学生および学年集団の DP1～4 に関する総合的到達度の客観評価を行います。これら学修成果の評価は学修ポートフォリオとし、学生が自身の学修を振り返り、改善する機会を提供します。また、アドバイザー教員は、学生の個々の達成度や将来の計画に応じた学修を支援します。

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー：ＡＰ）

学園の建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とし、薬学科の教育目標を達成するために、多様な選抜を実施することにより、以下の資質をもつ者を受入れる。

1　高等学校の教育課程を幅広く修得しており、理科系科目（化学、数学、物理、生物）の基礎的な内容を身につけている。
2　身の周りの問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え自分なりの結論を導き、説明することができる。
3　薬剤師となって、社会に貢献したいという明確な目的意識と意欲がある。
4　入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるためのプログラムに最後まで取り組むことができる。